

平成30年度 都城市立菓子野小学校 自己評価書

※4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

評価項目	評価指標等	方策・手立て	自己 評定	結果の考察・分析及び改善策等	
1 基礎学力の向上	① 基礎的・基本的学習内容の確実な定着	○ 全国学力学習状況調査、県学力状況調査等での成果アップ ○ 重点支援訪問による授業改善への取組強化 ○ 単元末テスト、学期末テスト等での目標達成	○ 学業指導の徹底 ○ 授業改善、指導法の改善 ○ 主題研究を通じた共通理解・共通実践 ○ スキルタイムの充実 (We b学習単元評価等の完全実施・国語科スキル実施) ○ 個に応じた指導の充実	○ 重点支援訪問（年3回）により、教職員一人一人が指導方法を見直し、授業改善が図られた。 ○ 各種学習状況調査の結果を全職員で分析し、指導に生かすことができた。今後、CRT結果を学習指導に生かしていく。 ○ 各学級で個に応じた児童への指導を心がけてきた。基本的な学習習慣の定着が身に付くよう指導を繰り返していく。 ○ 学校と家庭が連携し、児童の読書意欲を高めていったが、個人差がある。 ○ 「家庭学習の手引き」を配付し、指導を行ってきた。「家庭学習週間」も設定し、保護者にも目を通してもらうなどして意識化を図ったが、保護者との連携体制に温度差がある。 ○ ノーメディアの必要性を保護者に伝えたが、ゲーム等の時間を家庭でルール化できていない現状がある。	
	② 読書活動の推進	○ 児童の読書意欲向上 ○ 読書の質の向上 ○ 読み聞かせの全学年実施	○ 図書館教育の充実 (図書館サポーターとの活用) ○ 読書活用の工夫と意欲付け ○ ひまわりグループとの連携		
	③ 家庭学習の充実	○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化 ○ 各家庭での家読の実施 ○ ノーメディアデーの推進	○ 「家庭学習の手引き」を活用した指導の徹底 ○ 懇談会等での保護者への啓発 ○ 家読の啓発 ○ ノーメディア週間の実施	2	
2 豊かな心の育成	① 道徳教育の充実	○ 思いやりの心の醸成 ○ 「特別な教科 道徳」の実践 ○ 環境美化の推進 ○ 花栽培による心の育成	○ 道徳の時間の指導の工夫 ○ 心のプレゼント運動、善行児童の推薦紹介と称賛 (各学期1回)の実施 ○ 職員研修の実施 ○ ボランティア活動、一人2鉢活動の実施	3	○ 道徳の時間の指導は、各学級で確実に指導し、10月のオープンスクールでは、道徳の授業参観を実施した。保護者や祖父母、地域の方に参観していただいた。 ○ 高学年を中心として、毎朝、自主的なボランティア活動を行うことができたが、全校児童への広がりはなかった。 ○ あいさつや返事、言葉遣い等については、繰り返し指導をしてきた。整理整頓、無言清掃の徹底を図っていく必要がある。 ○ 学校のきまりを守るように、全児童を全職員で指導する体制をとり、職員間で連携した指導を繰り返した。 ○ 地域の方を招いたり地域に出かけたりした授業や全校で遊ぼう集会などを実施し、多くの人と交流を図った。今後も感動体験を教育活動において工夫し、学級活動等の指導の工夫・改善を図ってきたい。
	② 基本的な生活習慣の徹底	○ 規範意識の高揚 ○ 「菓子野っ子よい子の1日」の徹底 ○ 気持ちよいあいさつや正しい言葉遣い ○ 無言移動、無言清掃	○ 全職員の共通理解と共通実践・指導の徹底 ○ 学級活動、日常指導の工夫 ○ 各清掃場所での無言清掃の指導の工夫	2	3
	③ 人権教育の充実	○ お互いを認め合う心の育成 ○ 自己肯定感の高揚 ○ 指導法の工夫・改善	○ 全教育活動を通じた実践 ○ 全校・異学年交流の実施 ○ 職員研修、授業研究の実施	3	
3 健康安全教育の推進	① 体力向上プランの確実な実施	○ 運動に取り組む環境整備 ○ 体力テストの結果	○ 新体力テストからの目標設定と取組 ○ 目標をもって楽しく運動ができる体育科学習指導の工夫 ○ 運動の日常化の工夫 ○ 体育施設設備等の充実	3	○ 持久走や縄跳びを旬間として、業間活動に位置付け、実践した。体力テストの結果から次年度へ向け、男子は上体起こし、女子は長座体前屈等がアップするよう体育指導を工夫している。 ○ 「早寝・早起き・朝ごはんチャレンジ週間」を設定し、家庭での実践化を図ったが、早寝ができていない。家庭と連携をし、徹底していく。 ○ 立腰が昨年度よりできていない。年度当初に指導を強化し、学習中の姿勢がしっかり身に付くようにする。 ○ さらに、防災体制の徹底を図っていく。 ○ 安心・安全メールで緊急事案等について情報を発信できた。 ○ 「弁当の日」は、計画通りに確実に実践できた。全児童が各家庭で意欲的に取り組むことができた。
	② 健康安全教育の充実	○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ○ 立腰指導の徹底 ○ 防災体制整備による安全確保 ○ 緊急時等の連絡体制整備	○ 週間の設定による取組強化 ○ 授業における立腰指導 ○ 3防体制（防災、防犯、防疫）の確立 ○ 「学校安心・安全メール」による情報の発信と共有化	3	3
	③ 食に関する指導の推進	○ 「子どもがつくる弁当の日」の実践 ○ 栄養指導の充実	○ 学年に応じた「菓子野小弁当の日」の実践 ○ 養護教諭と担任が連携した指導の工夫	3	
4 ふるさと学習推進	① 地域の教育資源の積極的な活用	○ 地域と関連させた総合的な学習の時間「きらめきタイム」の充実 ○ 伝統芸能の継承	○ 地域素材・人材の活用 ○ 地域の各種団体等との連携 ○ 保存会と連携した依頼りの継承・発表の機会の設定	3	○ 各学年の学習活動で地域の人材・素材を生かした学習を行うことができた。 ○ 保存会の協力のもと、3、4学年が依頼りを練習し、運動会、庄内ふるさとまつり、都城市能楽で披露することができた。 ○ 5学年は、JA青年部やよかぜグループの協力で田植え、稲刈り、もちつき等貴重な経験ができた。 ○ 各地区の祭（6月灯）等や庄内地区ふるさとまつりへの参加も多かった。
	② 地域や各関係機関と連携した体験活動の実施	○ 学校支援ボランティア組織の活用 ○ 各関係機関と連携した体験活動 ○ 地域行事への積極的参加	○ 花づくりや学習支援でのボランティアの活用 ○ そよかぜグループとの連携した活動の実施 ○ 学校での地域の行事への参加の呼びかけ	3	
5 信頼される学校づくり	① 教職員の資質向上	○ コンプライアンスの遵守	○ 研修の実施、日常の取組		○ 研修や日常の声かけ等を徹底し、コンプライアンス遵守の徹底を図った。 ○ きめ細かな対応を心がけ、さらに、家庭、地域と連携を図っていく必要がある。 ○ 警察署、消防団等を活用し、児童にとって身近な防災を学ぶことができた。
	② 家庭・地域との連携・協働	○ 家庭・地域との密な連携 ○ 地域と連携した防災	○ 密な情報交換と情報発信 ○ 地域と連携した安全教育の取組		○ ホームページで学校行事等の活動の様子や給食のメニューをこまめに更新することができた。また、学校便りは毎月発行することができ、学校での児童の様子等を伝えることができた。
	③ 教育活動の外部発信とPCネットワークの活用	○ 学校だよりの発行 ○ ホームページの充実	○ 学校だよりの「かしのっ子」を発行による保護者及び地域への情報発信 ○ ホームページの更新によるより新しい情報の発信	4	4
	④ 一貫教育の充実	○ 庄内地区小中一貫教育、幼保小連携の推進	○ 小中一貫教育の共通実践 ○ 中学校や幼稚園・保育園との情報交換		○ 中学校や幼稚園・保育園との情報交換を図ることができた。今後も連携をとり、交流も深めていく必要がある。

次年度方向性についての校長所見

○ 本年度は、児童の基本的な学習習慣の定着、学校生活のきまりを守る等に職員間で連携しながら指導を行った。特に、特別な支援を必要とする児童に対してケース会を繰り返し行い支援体制づくりを図った。今後とも、学習の基本である立腰や読書習慣、生活や健康の基盤である「早寝・早起き・朝ごはん」については、学校で継続して指導するとともに保護者・PTAと連携し、定着度のアップを目指す。次年度へ向けて、特に「基礎学力の向上」「豊かな心の育成」「信頼される学校づくり」について、評価指標や手立て・方策を見直すとともに、さらに教育活動を充実させて、本校の教育目標の達成に向けて、学校・家庭・地域が三位一体となった学校づくりを行っていく。